

学生が目愛南の魅力は 松山東雲女子大・短大 課題解決へ水産視察



愛南町の水産業の現場作業を視察する
松山東雲女子大・短期大の学生ら

愛南町の潜在的な魅力を探り、地域課題を解消していくこと、松山東雲女子大・短期大の学生らが27、28の両日、同町で主要産業の水産業の現場を視察するフィールドワークに取り組んだ。

両大の共通カリキュラムの一環。両大と町

は2019年に包括連携協定を結び、産業活性化や食を通じた健康増進など多分野での協力を進めている。

学生と教員の計6人が参加し、初日は漁協や真珠養殖業者を訪問。愛南漁協で立花弘樹組合長にインタビューし、漁業者を守る取

り組みのほか、新型コロナウイルスやアコヤ貝の大量死で苦境にある業界の現状を聞いた。

浦崎真珠では、真珠の核入れ作業を見学した。

2日目はパールアクセサリーづくり体験や道の駅などの観光施設を見学。学生らは今後、聞き取り調査を重ね、外部からの視点で地域課題の解決策を提案していく。

初めて愛南に足を運んだという食物栄養学科2年の松垣遥さん(19)は「自然の豊かさや人の温かさに驚いた。魅力的な資源をつまやく若者に発信していく方法を考えていきたい」と意気込みを語った。

(山本憲太郎)

